

多摩川流域懇談会・ 矢作川流域圏懇談会連携企画！

(第61回多摩川流域セミナー)

2024. **11.30.** Sat

矢作川がわかれば 多摩川が見えてくる 多摩川がわかれば 矢作川が見えてくる

やはぎがわ

東京を流れる多摩川と、愛知を流れる矢作川。長さや流域の広さはよく似ている二つの川ですが、違うところもたくさんあります。二つの川の違うところやいいところを一緒に見つけて、川のステキな未来について考えてみませんか？

日時：2024.11.30 (土曜日)

午前の部 **10:00～12:00** (定員30名)

午後の部 **13:00～17:00**

(会場35名・WEB150名)

場所：大師河原干潟館 (川崎市、多摩川河口部)

プログラム

午前の部：多摩川河口部のアシ原・干潟・
高規格堤防の散策

午後の部：矢作川・多摩川流域間交流セミナー

★矢作川流域圏懇談会の講演・話題提供

☆流域の視点からみた治水と総合水管理

蔵治光一郎 (東京大学大学院教授・山部会座長)

☆矢作川流域圏懇談会14年のあゆみ

洲崎 燈子 (豊田市矢作川研究所主任研究員)

☆矢作川流域圏懇談会発足の経緯

蔭山 敦士 (豊橋河川事務所事業対策官)

★多摩川流域懇談会の講演・話題提供

☆多摩川の姿と課題

一過去30年のフィールド調査からの学び一

小堀 洋美 (東京都市大学客員教授・名誉教授)

☆多摩川の市民団体とTB ネット

佐山 公一 (みずとみどり研究会・事務局長)

☆多摩川流域懇談会発足の経緯と取組

大野智弘 (京浜河川事務所事業対策官)

★話題提供：矢作川と多摩川の空中写真比較

松沢 孝晋 (日本トンボ学会・総務幹事長)



はぎぼう



百川多摩



CPDプログラム
認定予定！

※午後の部のみ対象



多摩川流域懇談会フェイスブック
<https://www.facebook.com/tamaryukon>

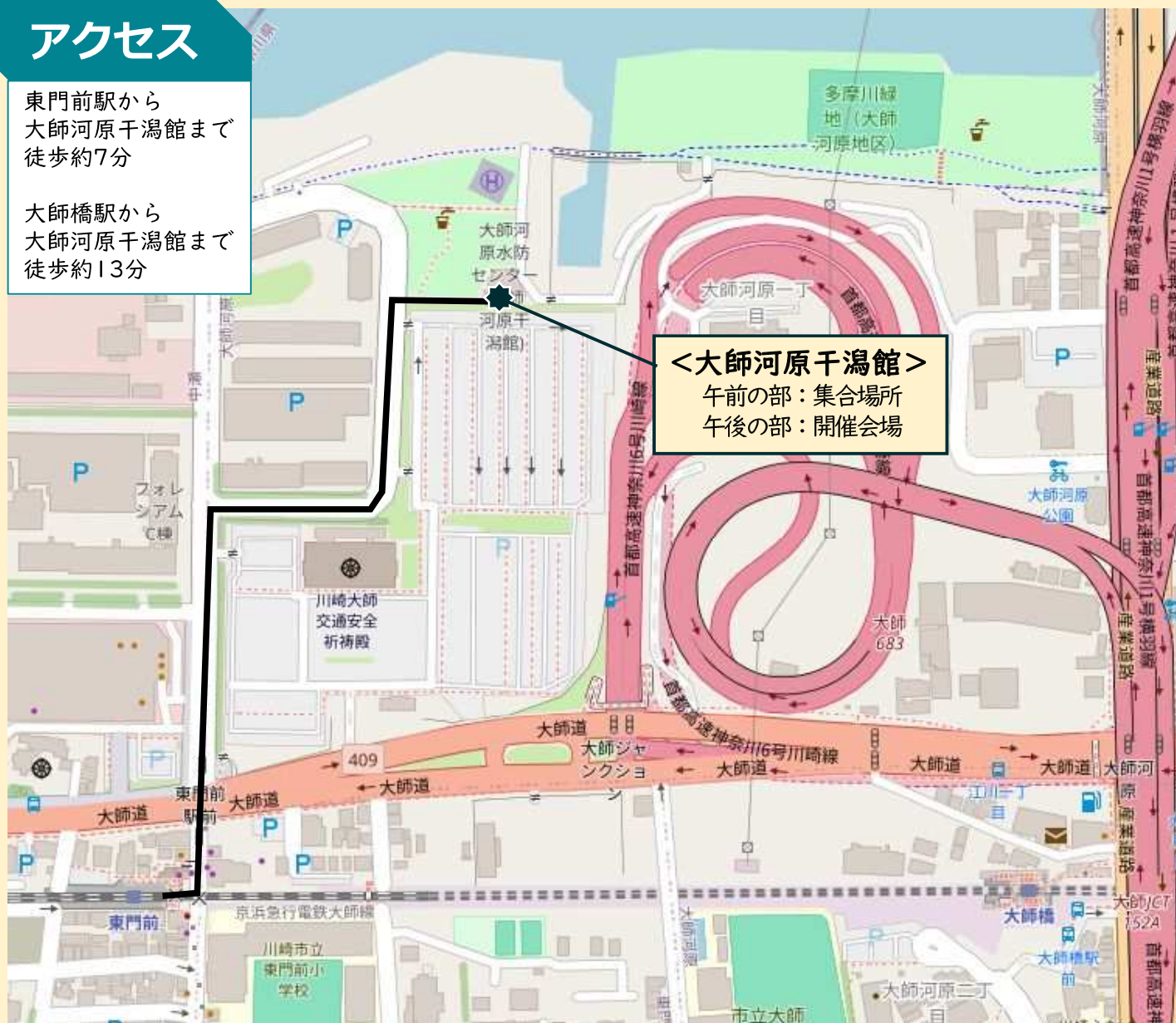


多摩川流域セミナー
ホームページ
<https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin00123.html>

アクセス

東門前駅から
大師河原干潟館まで
徒歩約7分

大師橋駅から
大師河原干潟館まで
徒歩約13分



● お申込・お問合せ先

【申込期間9/6（金）～11/28（木）】

※午前、午後のご参加に定員があるため
募集開始日を統一させていただきます。

参加ご希望の方は、【WEBサイト】もしくは【メール】にてお申込ください。
(車椅子など配慮が必要な方は、申込時にお知らせください)

◆お申込み先メール **mizutomidoriken@ybb.ne.jp**
(多摩川流域懇談会事務局みずとみどり研究会 担当：佐山)

◆お申込みの必要事項

メールの件名に「**第61回多摩川流域セミナー申込**」とご記入ください。

本文には下記①～⑥をご記入ください。

- ①ご氏名（代表者） ②ご氏名のふりがな ③所属（あれば）
- ④ご連絡先（携帯電話、メール） ⑤お申込み人数（代表者を含む）
- ⑥セミナー参加形態（午前・午後1つずつ選択）

WEBサイトからも
申し込み可能！



(こくちーずプロ)

午前（現地）	A1.参加する	A2.参加しない	
午後（セミナー）	P1.会場で参加	P2.WEBで参加	P3.参加しない

* お申込受付が完了しましたら、上記に記入いただいた連絡先に事務局よりご連絡（メール）いたします。

* 申込書にご記入いただいた個人情報、今回のセミナー及び今後の開催案内にのみ使用させていただきます。

2024 矢作川流域圏懇談会 検討資料

クロスオーバー！ 水循環・流域圏プロジェクト始動へ



水に感謝し、水の大切さを伝える

JST共創の場
形成支援プログラム

地域共創拠点

流域治水を核とした
復興を起点とする
持続社会



年月日	私が気になる動き	キーパーソン	トピックス
2012.7月	「森林飽和 国土の変貌を考える」発行	太田猛彦著（東京大学名誉教授）	
2014. 7. 1	水循環基本法 施行		
2014. 8. 1	第1回 水循環基本法フォローアップ委員会	座長；高橋裕（東京大学）	
2016. 3.22	第5回 水循環基本法フォローアップ委員会	第2期 座長；沖大幹（東京大学）	
2021. 4.28	第37回 水循環基本法フォローアップ委員会	第3期 座長；蔵治光一郎（東京大学）	
2020. 7. 3～4	令和2年 7月豪雨（梅雨前線） 球磨川水害／熊本県の被害が最大となる 他に九州北部など(7月中)	 	
2021.11月	球磨川水害を契機に「緑の流域治水」地域共創拠点プロジェクト発足／熊本県立大 島谷幸宏、萱場ら		

流域圏担い手づくり事例集Ⅵ、Ⅶ 及び公開講座に向けて

今までの事例集や公開講座から学んだキーワードがいくつかある。

- # 「矢作川の恵みで生きる」ことの共有 / 山部会の出発点であるが流域圏全てで共有すべきであろう
- # 妄想の共有、妄想を実現させることの重要性
- # 「都市のいいとこどり」をやめよう、双方向の関係性を築こう
- # 山や海など、流域圏で起こっている課題は全て他人ごとではない、自分ごとにしよう

さらに今さらながら「人口減少時代」を強く認識した時、従来の価値観・技術論とは異なる新しいポリシーを構築すべきだと感じている。**水循環基本法の理念**はそのベースとなるのではないかと気づく。2024年5月の山部会で水循環基本法フォローアップ委員会座長も担う蔵治座長からの、「流域治水から流域総合水管理への転換へ」という話はとても腑に落ちた。人口減少を前提条件と考えれば、真の意味での流域治水やネイチャーポジティブも親和性が高いと感じるが思い過ぎだろうか？さて、前回事例集では「海」をテーマに展開したが、次に「河川・都市域」「山」をテーマに続けるとしても、「水循環」という視点でも掘り下げてみたい。それぞれで具体的に取り上げるテーマについて、現時点での案を示してみる（以下）。

川、中下流域、都市のテーマ（案）

大テーマ	項目など	キーパーソン	その他、公開講座への展開
豊田市矢作川研究所 30年（1994～）	● 研究所30年の成果と現在の意義 これからの可能性について ● 川ではなく流域研究所として ／森の健康診断で果たした役割 ● ふるさとの川づくり 岩本川から広沢川への展開 ● 豊田市河川愛護団体の現在地	宮田昌和 洲崎燈子 山本大輔、 吉橋久美子 現在25団体	
水辺と流域の入口 (多くの人の巻込)	● 河川愛護団体以外の展開 ／矢作川水族館、橋の下舎など ● かわまちづくり、ミズベリング ／豊田市、岡崎市での展開 ● 枝下水資料室と 水辺とまちの入口研究所の交流	新見克也、内田良平、 永山愛樹 OneRiver 岩ヶ谷充、 宮川洋一 など 達志保、 井村、秀島、川口暢子	
流域総合水管理 として流域自治体 への関わり	● 安城市雨水マスタープラン ／グリーンインフラ、水田保全 ● 豊田市の流域治水とは ● 岡崎市の水循環計画	神谷間征裕、向井隆行 愛知・川の会 近藤朗、 豊田市河川課など 岡崎市担当者	人口減少時代の緑の流域治水

真の流域治水

ネイチャーポジティブ

- 球磨川で展開する流域治水
- 土研 自然共生研究センター

蔵治光一郎、
名工大 萱場祐一
森照貴 センター長

【公開講座（案）①】
3人の鼎談形式はどうか？

2024年12月までの開催



2024.1.20 中部のいい川ワークショップ
In 矢作川流域圏「流域治水と言う勿れ」



水循環 ／命の水

- 水循環基本法 フォローアップ
委員会（基本計画分科会）辻谷貴文
- 泉京垂井 神田浩史



【公開講座（案）②】
構成を含め検討していく
（＋蔵治or中村晋一郎）
2025年度の開催

農業・食の問題

- Foods for Children
- みどりの食糧戦略



藤永伊久美

【公開講座（案）③】
構成を含め検討していく
2024年度内開催(3月まで)
■ 松沢孝晋、鈴木建一で
調整する（市民部会主導）

その他

山、森林、源流域のテーマ（案）

大テーマ	項目など	キーパーソン	トピックス
根羽村 平谷村 飯田市など	● 今村豊去りし後の根羽村と森林組合の展開 ● 根羽村での学生合宿の意義とは ● 木材利用での連携とは ● 上流と下流の繋がり	石原稔明 参事 山本英介・彩花 信州大学学生・OBたち 佐竹寅次郎、石原龍太、渡邊美里など 根羽材に魅せられた建築家たち（飯田市）新井優など 安城市 太田真智子	
恵那市	● 百経「半農半カフェ、ちょい移住」 ● 素人山主の終活	丹羽健司	
豊田市	● 戸田友介という生き方の現在地	戸田友介	
岡崎市 幸田町	● 唐澤晋平という生き方の現在地 ● 幸田町での森づくり	唐澤晋平夫妻	
川下自治体での木材利用	● 蔵治座長、鈴木建一氏の現状調査		
緑の食	● 山地酪農 ● ジビエ	幸山明良（根羽村）→ 清水潤子（豊田市）	
その他			

2024年9月1日～2日【根羽村・飯田市での学生たちの林業ミライ合宿】

2022.8.18～ 8.19 第1回林業ミライ合宿



伊那谷の森で家をつくる会
新井優さんが設計した建築（飯田市）
～ 根羽材を愛し根羽とかかわりが深い



年月日	2024年度の動き	キーパーソン	トピックス
2024. 9. 1～2	第3回 森林・林業体験合宿 in 根羽村	地域の未来×中部流域連携×信大	人間環境大
2024. 9. 6～7	第71回山部会 in 根羽村		
2024. 9.11	全国川ごみネットワーク オンラインミニセミナー 河川からのプラスチックごみ流出量の評価	八千代エンジニアリング 吉田拓司	
2024. 9.14	愛知・川の会 /源兵衛川エクスカーション（三島）	松井正澄、星剛介、山田夏希	
2024. 9.28～29	第16回 いい川・いい川づくりWS in 白山大会	全国水環境交流会	金城大学
2024.10.12～13	NSP22 答志島合宿&第12回奈佐の浜海岸清掃		
2024.11.26	矢作川流域圏懇談会 全体会議		
2024.11.30	多摩川懇談会×矢作川懇談会合同セミナー（東京）	神谷博、蔵治光一郎	

多摩川流域懇談会との交流に向けて

多摩川流域懇談会との交流については、2022年6月に東京において星剛介氏、中田慎氏が建設技術研究所の竹内えり子女史と出会った時より始まる。その後同年9月いい川ワークショップ（東京）を経て、2023年1月に交流に向けたオンライン会議を開催、同年9月のいい川WS東北大会（仙台）で具体的な話し合いを行い、まず両者で多摩川源流での交流をキックオフとした（2023年11月7～8日）。その後2024年1月の 中部のいい川WS in 矢作川流域圏に来ていただき、2月には「川の日」関東大会での共同プレゼンを経ていよいよ2024年11月に多摩川河口部での合同セミナーを実施することに至った。それまでに両者が交流する意義についても十分議論したい。

- 矢作川がわかれば多摩川が見えてくる 多摩川がわかれば矢作川が見えてくる by 松沢孝晋
- 「多摩川流域懇談会は河川整備計画（河川法）の中で」 by 神谷博
「矢作川流域圏懇談会は水循環基本法の理念に基づくしかないのではないか？」 by 近藤朗

2024. 2.17 「川の日」WS 関東大会

